



**日本勤労者山岳連盟**  
Japan Workers' Alpine Federation

JWAFとは | アクセス | お問い合わせ | リンク | サイトマップ

  
申請

  
労山基金

  
加盟団体

  
活動紹介

  
優待施設

  
出版物

## 保険に入ろう

### 労山基金

**目次**

- 労山基金（労山山岳事故対策基金）とは
  - 基金の説明・規定など文書類
  - 基金の運営
  - 基金改定のお知らせ
- 労山基金に加入するには
- 寄付金と交付について
- 労山会員優待のサービス
- 各種申請書・お問い合わせ

#### 労山基金（労山山岳事故対策基金）とは

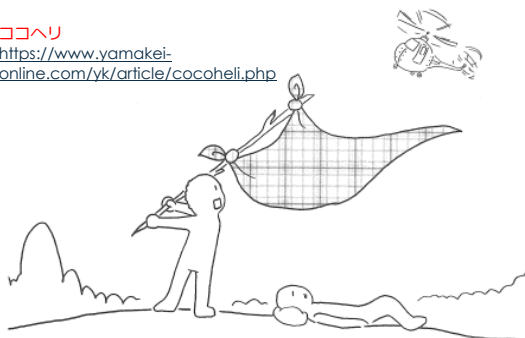
遭難対策事業の一環として、日本勤労者山岳連盟（労山）が運営している基金です。労山会員の寄付によって運営する、会員のための山岳遭難救済制度です。救助・捜索やケガ、急病などの登山中の事故を救済対象とします。

### (9) ヘリ救助

ケガや病気で緊急を要する場合や、自力での下山が困難な場合は、ヘリコプターによる搬出を要請しましょう。要請先は110番（各都道府県警察）です。ヘリコプターは日没後の飛行ができません。日没まで余裕のある時間帯で、頭上が開けた場所で待機しましょう。ヘリコプターから地上にいる人を見つけるのはたいへん困難です。現在地をできるだけ具体的に詳しく警察に伝え、ヘリコプターが見えたら点滅ヘッドランプを使ったり、雨具や銀マットを大きく振るなどで合図しましょう。また、「ココヘリ」という会員制の超小型・無線発信機が普及しています。これを持参していると、上空からの発見が非常に容易になります。

特に、単独で山に入った時には、もしも転落すると行方不明になってしまいます。そんな時にも、「ココヘリ」は行方不明者発見に大きな威力を発揮します。

ココヘリ  
<https://www.yamakei-online.com/yk/article/cocoheili.php>



### 「ココヘリ」の仕組み

CHECK-03



「ココヘリ」は、入会金・年会費を支払って登録する「会員制捜索ヘリサービス」です。

会員になると、識別番号をもった電波発信機が会員証として貸与されます。

大きさは3.9cm×5.7cm×1.3cmとコンパクト、重さも約20gと、持ち運びに苦勞しません。電波の受信距離は最大16km、1回の充電で約2~3ヶ月間、電波を発信し続けます。

万が一、会員が山で遭難し、行方不明になった場合、留守宅からの連絡を待ち、その山域へ提携の捜索ヘリが飛び(※)、会員の電波をキャッチして位置を早く正確に特定し、救助組織に引き継ぎます。

※ 捜索ヘリは1事案につき3回まで無料

### 登山者の安全・安心のための 新たな三種の神器

CHECK-04

遭難者の位置がわかったら、救助活動が始まります。もちろん発見してすぐに救助できる場合もありますが、場所が特定されても、すぐに救助できない場合もあります。救助にヘリが使える場合もあれば、人の手が必要になる場合もあります。遭難者を探すこと、救助することは、別のものなのです。

登山保険 + 登山届け + ココヘリ

